

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 30 日現在

機関番号：32649

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24530383

研究課題名(和文)近代エネルギー産業・鉱山業の比較史的研究

研究課題名(英文)The Research of Comparative History of Modern Energy and Mining Industry

研究代表者

内藤 隆夫 (NAITO, TAKAO)

東京経済大学・経済学部・教授

研究者番号：60315744

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：当初設定した「採鉱・製錬技術」「地域の社会経済との関係」「国家統制との関係」という視点にもとづき、石油産業・佐渡鉱山そして日本窒素に関する個別研究を積み重ねた。特に佐渡鉱山については、基礎的史資料の収集を踏まえた上で一昨年度まで刊行された年報等に毎年研究成果を活字化し、その過程で国際シンポジウムでの報告も行った。石油産業についても複数の論文(刊行予定を含む)を執筆し、他に学会報告・講演等も行った。

研究成果の概要(英文)：I researched plural studies related to oil industry, Sado mine, and Nippon nitrogen fertilizer Co., based on the three points of view which are "mining and smelting technology," "relation with the social economy in each region of Japan," and "relation with Japanese statism (government control)".

Especially for Sado mine, I have been published papers and conducted the research presentation of the results from the study at an international symposium, based on the collection of basic history of materials. In addition, regarding the oil industries, I published several papers including the publication scheduled, presented at several academic meetings and conferences, and gave a lecture to the other opportunity.

研究分野：日本経済史

キーワード：石油産業 佐渡鉱山 日本窒素 採鉱・製錬技術 石油カルテル 日本石油 宝田石油

1. 研究開始当初の背景

近年エネルギー産業と地域社会・国家との関係のあり方が注目されている。第二次世界大戦以前にエネルギー産業を中心に鉱山業がさかんだったわが国では、この両者の関係が互いの発展を促しあるいは歪めるといふ複雑な経緯をたどった。戦前の両者の関係を究明することで現在のあり方を相対化し、時にその見直しを迫ることになると期待される。

筆者はこれまで石油産業を中心に研究してきた。そして、前回受けた科学研究費補助金(若手研究B)で、新潟県を事例に蚕糸業・地方銀行の展開と地域経済の関係を石油産業と比較検討した。以上の過程においてエネルギー産業・鉱山業相互の比較を行う必要を感じるに至り、本研究に着手することとなった。

2. 研究の目的

当時の主要なエネルギー産業の石油産業と石炭産業は鉱山業の性格を有したため、これを佐渡鉱山と比較検討することでより説得力の高い結論が得られると期待された。また、そうした鉱山業としての共通性あるいはその中での相違点は、何よりも技術的特性に規定されると考えられるため、採鉱・製錬技術の展開の検討も重要と考えられる。以上の問題意識にもとづき、研究の全体構想を、近代日本の社会経済においてエネルギー産業・鉱山業の展開が果たした役割・意義を検討することとする。本研究ではその第一次的接近として、近代の石油産業・石炭産業・佐渡鉱山について、採鉱・製錬技術、地域の社会経済との関係、国家統制との関係というテーマに即した実証研究を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

平成24年度には佐渡鉱山関係を中心に、三菱史料館・佐渡市・旧帝国大学採鉱冶金学科・応用化学科等の図書館・愛知大学研究室・ホクゲン経済研究所などの資料所蔵先への訪問を繰り返す等によって基礎的文献・史資料の収集に力を注ぎ、その収集状況をもとに、ただちに分析が可能なテーマあるいは研究課題と、引き続き資料収集等の下準備が必要なものとに分けて研究を進めることとした。すなわち、進捗状況の良好な研究にまず力を注ぎ、そこで成果を挙げることが優先し、しかる後に遅れている研究に集中的に取り組むという方針で研究を進めることとした。

4. 研究成果

研究成果を各年度別に分け、当該年度の研究の過程と併せて述べると、以下の通りである。

平成24年度においては、研究史的に全く遅れている佐渡鉱山史に関する史資料の収集に努めた。具体的には、(1)三菱史料館所

蔵にかかる佐渡鉱山『年報』各年、(2)旧帝国大学を中心とした採鉱冶金学科・応用化学科等の学生が行った鉱山実習報告(報文)、(3)金銀の選鉱・製錬に関する技術書・文献等を収集し、その熟読や分析を行った。そうした作業をもとに、まず明治期の佐渡鉱山の製錬部門に関する技術導入の経緯・内容・意義と限界等に関する論文「明治期佐渡鉱山の製錬部門における技術導入」を執筆して当時の所属先紀要に投稿し、掲載された。次に、佐渡鉱山史の基本史料の一つと言える『佐渡鉱山史』の復刻に際しての解題である「【解題】『佐渡鉱山史』第二十回・第二十一回』及び昭和期の選鉱・製錬部門における画期的技術である浮遊選鉱法の導入と展開に関する論文「浮遊選鉱法の考察」を執筆し、両者は『受託研究「佐渡金銀山の歴史的価値に関する研究」2012年度調査報告書』に掲載された。また上記(2)の資料の収集後、その分析を進める過程で中間報告を兼ねて、2012年10月に行われた世界遺産国際シンポジウム「歴史資料から見る佐渡金銀山」において、「実習報告から見た佐渡鉱山の技術」と題した報告(招待講演)を行った。

平成25年度においては、第一に石油産業史研究について、「採鉱・製錬(精製)技術」の視点から、明治～大正期にかけての潤滑油(当時の名称は機械油)の生産を中心に事業を行い、その分野で一定の競争力を有した個人精製業者の活動に注目し、その中で後年の大協石油の前身となった石崎製油所の事例に即して論文「明治期石油精製業者の製造・販売活動と原油調達」を執筆した。同論文はこの年度からの所属先の紀要に掲載された。第二に、佐渡鉱山史研究について、前年度に引き続き『佐渡鉱山史』の復刻に際しての解題に取り組み、「【解題】『佐渡鉱山史』第二十二～二十四回』及び「【解題】『佐渡鉱山史』第十三～二十四回」を執筆し、同資料の近代全体に関する見取り図を得た。また、佐渡を中心に三菱が蓄積した金銀の採鉱・製錬技術の、植民地朝鮮への移植について、当該期朝鮮の産金業及び産金政策の展開と併せて検討し、「植民地期朝鮮における産金業・産金政策と三菱の事業展開」を執筆した。これらは全て『受託研究「近代の佐渡金銀山の歴史的価値に関する研究」2013年度調査報告書』に掲載された。

平成26年度においては、第一に石油産業史研究について、国家統制との関係の視点から、石油産業における独占体制が1934年石油業法の公布・施行後、その後ろ盾をもとに油種別カルテル団体ができたことで初めて成立できたことを解明すべく、論文「戦間期の石油産業の変化と「独占の成立」」を執筆した。本論文については、平成24年度から1920年代～30年代における『中外商業新報』のマイクロフィルムを収集・閲覧し、当該期の石油産業あるいは石油市場の動向に関する資料収集を進めることを通じて準備して

きたが、本年度において『中外』に加え経済雑誌の記事の収集が必要であると考えに至り、当該期の『東洋経済新報』『ダイヤモンド』の記事の収集・分析を行うことで、執筆にこぎ着けたものである。同論文は2016年度中に『資本主義経済の歴史(仮)』(日本経済評論社)の第7章として刊行される予定である。また同じく石油産業史研究において、「採鉱・製錬(精製)技術」の視点から、個人精製業者石崎家・新津家・早山家の事業分析を機械油の生産技術の分析と併せて、「明治～大正中期日本石油産業における第三のタイプ」として社会経済史学会全国大会で報告した。第二に佐渡鉱山史研究について、これまで積み重ねてきた事業に関する「採鉱・製錬技術」の視点から通観すべく、論文「近代佐渡鉱山史」を執筆した。また、その際の基本資料となる、旧帝国大学等の採鉱冶金・応用化学科等の学生が残した実習報告(報文)の所蔵状況等の調査結果を、「佐渡鉱山学生実習報告(報文)及び目録等の文献リスト」としてまとめた。この2つはともに、『受託研究「近代の佐渡金銀山の歴史的価値に関する研究」2014年度調査報告書』に掲載された。第三に当初の計画にはなかった研究ではあるが、やはり「採鉱・製錬技術」の視点から、植民地期朝鮮における日本窒素肥料の人造石油事業について、同社の朝鮮北部における事業展開及び敗戦後の事情と併せて、「植民地企業城下町の構築と変容」「朝鮮北部工場群の継承と従業員の「脱出」「引揚」という2本の論文を執筆した。同論文は2017年3月に白木沢旭児編『帝国と地域社会』(北海道大学出版会)の第10・11章として刊行される予定である。

平成27年度においては、まず前年度に執筆した論文「戦間期の石油産業の変化と「独占の成立」」「植民地企業城下町の構築と変容」「朝鮮北部工場群の継承と従業員の「脱出」「引揚」の修正・改訂に努めた。次に石油産業史研究において、宝田石油の成立(1893年)から日本石油との合併による消滅(1921年)に至る生涯を通観し、「宝田石油の30年」という題目で講演を行った。また、本年度中における成果の発表には至らなかったが、戦間期の日本石油・宝田石油・旭石油の事業に関する資料の収集と分析を行った。それをもとに当該期の後2社について論文を執筆し2016年度中に所属先紀要に投稿する予定であり、さらにそれを踏まえて次年度には日本石油産業史に関する単著の執筆を予定している。また本研究期間中の研究をもとに、2016年7月には新潟市文化スポーツ部歴史文化課主催のシンポジウム「フォーラム新潟の石油文化遺産を探る」(万代市民会館)において「近代日本石油産業史における新津油田・中野家事業・金津油田」という題目で基調講演を行う予定であり、10月には政治経済学・経済史学会秋季学術大会(立教大学)のパネル・ディスカッション「近代佐渡

鉱山史研究」において「明治期～昭和戦前期における佐渡鉱山の技術」という題目で報告を予定している。

研究成果は以上の通りであるが、産業としては石油産業と佐渡鉱山について、テーマとしては採鉱・製錬技術、国家統制との関係については、当初の予定通り研究が進捗したと言える。また、日本窒素肥料の人造石油を中心とした朝鮮での事業展開という、当初の予定にはなかった研究も行うことで、石油産業及び採鉱・製錬技術の研究を深めることができた。一方、産業としては石炭産業について、テーマとしては地域社会との関係についての研究が思うように進まず、その結果、当初目指していた、複数のエネルギー産業・鉱山業間の比較分析を行うという目標が達成されなかったことが、反省点として挙げられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

内藤隆夫「近代佐渡鉱山史」小風秀雅編集・発行『受託研究「近代の佐渡金銀山の歴史的価値に関する研究」2014年度調査報告書』査読無、2015年、1-29頁。

内藤隆夫「佐渡鉱山学生実習報告(報文)及び目録等の文献リスト」小風秀雅編集・発行『受託研究「近代の佐渡金銀山の歴史的価値に関する研究」2014年度調査報告書』査読無、2015年、119-122頁。

内藤隆夫「植民地期朝鮮における産金業・産金政策と三菱の事業展開」小風秀雅編集・発行『受託研究「近代の佐渡金銀山の歴史的価値に関する研究」2013年度調査報告書』査読無、2014年、3-19頁。

内藤隆夫「【解題】『佐渡鉱山史』第十三～二十四回」小風秀雅編集・発行『受託研究「近代の佐渡金銀山の歴史的価値に関する研究」2013年度調査報告書』査読無、2014年、43-44頁。

内藤隆夫「【解題】『佐渡鉱山史』第二十二～二十四回」小風秀雅編集・発行『受託研究「近代の佐渡金銀山の歴史的価値に関する研究」2013年度調査報告書』査読無、2014年、45-48頁。

内藤隆夫「浮遊選鉱法の考察」小風秀雅編集・発行『受託研究「近代の佐渡金銀山の歴史的価値に関する研究」2012年度調査報告書』査読無、2013年、3-9頁。

内藤隆夫「【解題】『佐渡鉱山史』第二十回・第二十一回」小風秀雅編集・発行『受託研究「近代の佐渡金銀山の歴史的価値に関する研究」2012年度調査報告書』査読無、2013年、29-33頁。

内藤隆夫「明治期石油精製業者の製造・販売活動と原油調達」『東京経大会誌 - 経済学 -』査読無、第279号、2013年、259-287頁。

内藤隆夫「明治期佐渡鉱山の製錬部門における技術導入」北海道大学『経済学研究』査読無、第62巻第3号、2013年、95 - 106頁。

内藤隆夫「1980年代から90年代中期の石油政策」北海道大学『経済学研究』査読無、第62巻第1号、2012年、29 - 67頁。

〔学会発表〕(計7件)

内藤隆夫「大正・昭和期の小出銀行」地方金融史研究会10月例会、2015年10月23日、地方銀行会館(東京都千代田区)。

内藤隆夫「宝田石油の30年」東山油田(史跡・産業遺産)保存会講演会(招待講演)、2015年7月19日、まちなかキャンパス長岡(新潟県長岡市)。

内藤隆夫「明治～大正中期中期日本石油産業における第三のタイプ」社会経済史学会第83回全国大会、2014年5月24日、同志社大学(京都府京都市)。

内藤隆夫「書評報告 長谷川貴彦著『産業革命』」政治経済学・経済史学会北海道部会、2013年2月16日、北海道大学(北海道札幌市)。

内藤隆夫「書評報告 韓載香著『「在日」企業の産業経済史』」社会経済史学会北海道部会、2012年12月22日、北海道大学(北海道札幌市)。

内藤隆夫「実習報告から見た佐渡鉱山の技術」世界遺産国際シンポジウム「歴史資料から見る佐渡金銀山」(招待講演)、2012年10月13日、アミューズメント佐渡(新潟県佐渡市)。

内藤隆夫「大正期の地方銀行経営に関する一考察」地方金融史研究会6月例会、2012年6月29日、地方銀行会館(東京都千代田区)。

〔図書〕(計1件)

中西聡『日本経済の歴史』名古屋大学出版会、2013年、(共著、129 - 145、156 - 165頁を担当)。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

内藤 隆夫(Naito, Takao)

東京経済大学・経済学部・教授

研究者番号：60315744

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：